

イラン近代教育と英仏の文化・宗教団体の活動

山 崎 和 美

はじめに

欧米の宗教団体や文化団体の活動は、イランの近代教育、とりわけ、女子学校教育の発展に貢献した。イランに近代教育が根付き始めた黎明期に、広くイラン大衆を対象とする初等教育、特に、識字教育の推進に尽力したのは、国家ではなく民間であり、イラン国内の宗教的マイノリティやムスリムなどの民間の教育活動家による識字教育への尽力を鼓舞したのは、欧米の宗教団体や文化団体の活動である。中でも、初等教育レベルでの女子を対象とする近代教育に関しては、欧米人の果たした役割が大きかった。以上のことから、前稿では、欧米人による教育活動について検証したが、紙幅の問題があり、特に女子教育の推進に影響を与えた米国と仏国のキリスト教宣教師の活動に限定した⁽¹⁾。だが、イランの近代教育の展開についてより深く理解するためには、他の宗教団体や文化団体の活動についても考察すべきである。従って、本稿では、英国の宗教団体および仏国の文化団体の活動について検証したい。

本稿で取り上げる英国の宗教団体とは、英国国教会（英国聖公会）とその宣教団体である⁽²⁾。19世紀の海外宣教時代には、福音主義（évangélisme⁽³⁾）に立つ英国教会宣教会（英国聖公会宣教協会：Church Mission Society：CMS⁽⁴⁾）と、アングロ・カトリックの伝統に立つ英国福音伝道会（Society for the Propagation of the Gospels：SPG.）⁽⁵⁾などの宣教団体が、米国聖公会などとともに、積極的な活動を展開したと言われる⁽⁶⁾。

仏国の宗教・文化団体とは、アリアンス・フランセーズ（Alliance Française, Association nationale pour la propagation de la langue française：AF）と国際イスラエル協会（Alliance Israélite Universelle：AIU）（Āliyāns-e Esrāīlī-ye Jahānī）である。アリアンス・フランセーズという文化団体が、年間 300,000 フランの予

算とともに設立された 1883 年に創刊された機関誌『会報 (Bulletin)』は、3 ヶ月に 1 度の割合で発行され、AF の支部が世界に拡大していくさまを伝えた。⁽⁷⁾ パリに 1860 年に創設された国際イスラエル協会は、世界中のユダヤ教徒の人権状況と、知的、教育的、道徳的、社会的そして法的状況の改善を目的としていた。AIU に特徴的だったのは、イラン人ユダヤ教徒の女性たちの生活を改善することと、男子卒業生たちの仲間となりうるように女子を教育するという女子に対する教育目標である。⁽⁸⁾

イランでは、19 世紀前半から、仏カトリックのラザリスト修道会⁽⁹⁾、ボヘミアのプロテスタントのモラヴィア派教会⁽¹⁰⁾が活動し⁽¹¹⁾、1860 年代までに、英国国教会⁽¹²⁾、独プロテスタント⁽¹³⁾、スイス・プロテスタント⁽¹⁴⁾、米プロテスタント、仏カトリックの宣教団が活発に活動するようになっていた。

ガージャール朝 (1796～1925) のモハンマド・シャー期 (1834～48) になると、欧米人宣教師とそれに刺激を受けたイラン人マイノリティにより設立された新方式学校が増加した。⁽¹⁵⁾ 教育の分野において精力的に活動したのは、特に、ラザリスト修道会に属する仏国人宣教師と⁽¹⁶⁾、米長老派に属する米国人宣教師である。⁽¹⁷⁾ イランで最初に、女子教育 (特に初等教育レベルでの識字教育や家政学・衛生学教育) に力を入れたのは、米プロテスタントの中でも特に、会衆派 (Congregationalists) の宣教団 (American Board in Boston)⁽¹⁸⁾ であり、1870 年頃には、長老派 (Presbyterian) の宣教団 (Presbyterian Board of Foreign Missions)⁽¹⁹⁾ がこれに取って代わったとされる。米プロテスタントと仏カトリックの宣教師たちが活躍したのは、活動の開始から 1870 年頃までは、オルミーエやサルマースなどイラン北西部のアゼルバイジャン地方であり、この地に居住するアッシリア人 (Nestorians)⁽²¹⁾ への布教を足がかりとして、新方式学校設立などの活動が行われた。⁽²²⁾ 一方、ムスリムは、それらの欧米人校の設立者がキリスト教徒であることや、彼らと交際することが宗教的問題を孕むことから、このような学校に通学することは極めて稀であった。⁽²³⁾

ナーセロディーン・シャー (在位: 1848～96) の時代、特に、1870 年代以降には、ミッシヨナリー校が急増し⁽²⁴⁾、イラン北西部のアゼルバイジャン地方のみならず、テヘランをはじめとする主要都市にも開校されるようになる。特に米国宣教団の支部は、テヘラン (1872)、タブリーズ (1873)、ハマダーン (1881)、ラシュト (1883)、と拡大していく。⁽²⁶⁾ この時代には、米プロテスタントおよび仏カトリックの宣教師に加え、英国国教会 (英国聖公会) の宣教師、



出典：http://www.britannica.com/bps/media-view/2028/1/0/0
(2011/10/12 閲覧)

注；日本語の表記に関しては、拙稿「イランにおけるキリスト教宣教師の活動——近代教育を中心に」『駒澤大学仏教学部論集』42号、2011年、286頁参照。

ロシア正教会の宣教師などが精力的に活動している。さらに、こうしたミッションナリーに加えて、アリアンス・フランセーズと国際イスラエル協会といった文化団体の活動が目覚しかった。⁽²⁸⁾

1. 英国国教会（英国聖公会）

米国や仏国の宣教師たちの教育活動がテヘラン、ハマダーン、タブリーズ、オルミーエなどの北部および北西部に集中していたのに対し、英国国教会の活動は、エスファハーン、ケルマーン、ヤズド、シーラーズなど、イラン南部の都市に集中していた。⁽²⁹⁾

1840年、王立地理学会（Royal Geographical Society⁽³⁰⁾）とキリスト教知識普及協会（Society for the Promoting Christian Knowledge：SPCK⁽³¹⁾）の連合組織によ

り、エーンズワース (W. F. Ainsworth) が「アッシリア人たち (Nestorian people) の状況を報告する」という名目で、イランに派遣された⁽³¹⁾。1842年には、著名な学者であるバジャー博士 (Dr. G. P. Badger) が、SPCK と英国福音伝道協会 (Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts : SPG、英国福音伝播協会、現 USPG)⁽³³⁾ により派遣され、ネストリウス派教会 (Nestorian) の儀礼に関する資料を収集している。カーゾン卿 (Curzon) によれば、1868年に Tait 大主教に対して、アッシリア教会⁽³⁴⁾の主教 (bishop) からさらなる支援を求める要請があり、1881年には、テイト博士 (Dr. Tait) により1人の聖職者が派遣されている。1884年、トルコ人やイラン人たちとの間に抱えた問題に関し、その状況を報告するという口実で、ベンソン大主教 (Archbishop Benson) によってリレー (Reley) が派遣され、1888年には別の聖職者たちがイランに到着した⁽³⁵⁾。

英国国教会の宣教師たちの活動は、1843年にマー・サイモン (Mar Shimun) がホーレイ (Howley) 大主教 (Archbishop Howley) との関係を構築し、1862年に宣教師で教育活動家でもあるロバート・ブルース (Robert Bruce) が、エスファハーンのジョルファーに到着したことで強化された。彼は1872年、アルメニア人により設立されたと言われるジョルファーのジョージ・ジョセフ (George Joseph) 校を、CMS の代表として接收し、1年後、同校はアルメニア人のための学校であるバタヴィアン (Batavian) 校を吸収した。

CMS とアルメニア使徒教会、そして地元のウラマー支配層との間で、カリキュラムや伝道の問題に関する諍いが継続していたにもかかわらず、1875年の時点で、ジョージ・ジョセフ校は、様々な背景を有する135人の生徒を擁しており、その生徒の中にはアルメニア典礼カトリック教会信徒とアルメニア使徒教会信徒、そして30人ものイスラームの少年が含まれていたという。ガージャール朝の王子、ゼッロツソルトーン (Mas'ūd Mīrzā Zell os-Soltān : 1850 ~ 1918)⁽³⁷⁾ はジョージ・ジョセフ校を支援し、資金を貸しつけた。エスファハーンの上級宗教関係者たちに対する公然たる抵抗の意思表示として、彼は自身の廷臣たちに自らの息子をその学校に送り込むよう命令した、と記録されている。さらに、ゼッロツソルトーンは機会があれば同校を訪問し、自身の名前の「マスウード」にちなんで「マスウーディーエ (Mas'ūdiye)」という名誉ある称号を同校に与えるなどして、ヨーロッパ式教育に対する称賛や推奨の姿勢を表明した。1885年の時点で、CMS の男子校や女子校は、合わせて300人もの

生徒を有していたといわれる⁽³⁸⁾。

英国国教会の宣教団の支部はオルミーイエにも存在し、キャノン・マクレーン（Canon Maclean）の責任の下で、その設立が急がれた。1889年当時、この宣教団の収入は、会費（subscriptions）による1,000ポンドと寄付（donations）による900ポンドであったといわれている。Curzon [vol. 1, 1892: 544]によると、オルミーイエには司祭（Priests）や助祭（Deacons）を養成するカレッジがあり、この学校は1891年はじめの時点で70人の生徒を擁していた。Delrish [1375: 126]によれば、英国人牧師たちが1885年、オルミーイエに男子校を設立した。この地域にはさらに、50人の生徒を有する男子中等学校（high school）、20人の生徒を擁する女子中等学校（high school）が存在したという。トルコとの国境地帯の村々では、5人の英国人聖職者が活動し、英国国教会宣教師による学校が72校あり、合わせて500人近くの生徒がいた⁽³⁹⁾。

英国国教会は女子教育にも従事した。1890年、4人の英国人女性宣教師たちが、オルミーイエに女子校を設立した⁽⁴⁰⁾。1891年頃、オルミーイエには、20人の生徒を擁する女子中等学校が存在していたという⁽⁴¹⁾。

後年のデータではあるが、教育省（Vezārat-e Ma'āref）の1923/4年の統計によると、この年、英国人により設立されたユダヤ教徒の女子校（Madrasi-ye Engelīsi-ye Dokhtarāne-ye Kalīmiyān）には、127人の生徒と9人の教師が在籍していたが、1927/8年には161人にまで生徒数が増加している⁽⁴²⁾。

2. アリアンス・フランセーズ

AFは、仏語と仏国文化を世界に広めることを目的として設立された。その機関誌『会報（Bulletin）』には、「海外に居住する仏国人たちと関係を築き、彼らに加え、あらゆる人種、民族からなる仏語と仏国文化を愛する人々の中に、仏語を国民語として生かし続けること」を目指すとする。同誌の表題頁にも「仏語に向かうものは誰でも仏国的な方法や習慣に向かうだろう。仏国的な性格や気質にアプローチすれば、仏製品に向かうだろう。国外における仏語の拡大は、（外国と仏国の）関係の拡大、（仏国製品を海外で売るための）売買の簡易化、さらには（仏国の）国産製品の増加のための道具（手段）である」と記されている⁽⁴³⁾。『会報（Bulletin）』はさらに、「仏語を海外に普及させることは、（仏国と外国との）通商を容易にするような関係を構築するための、そし

て、(仏国の) 国民意識を育てるための効果的な道具である」と説明し、「仏語のあらゆる顧客は、仏国製品の顧客となる」、AFの活動は「世界中に近代的な(仏語に通じている) 文明を普及させるための闘いである」と認識していた。

AFは、新たな仏国人学校を海外に設立するだけでなく、既に仏語を教えている既存の仏国人学校を支援することを通して、こうした目的を達成しようとした。1889年の『会報 (*Bulletin*)』によると、AFの2つの支部はテヘランとシーラーズに存在しており、そのイラン人創設メンバーの中には、アミーノツソルターン ('*Alī Asghar Khān Amīn os-Soltān*)⁽⁴⁴⁾、アミーノッドウレ (*Mīrzā 'Alī Khān Amīn od-Doule*)⁽⁴⁵⁾、ナーイエボツソルタネ (*Kamrān Mīrzā Nāyeb os-Saltane*)⁽⁴⁶⁾、および、ダーロルフオヌーン (*Dār ol-Fonūn*)⁽⁴⁷⁾ 校の校長ナーツイエロルモルク (*Ja'afar Qolī Khān Nayyer ol-Molk*)⁽⁴⁸⁾ が含まれ、その他、6人の著名なイラン人高官や医師がそのメンバーの中に数えられる。仏国人外交官、教育者および医師はAFの中で37人存在したが、イラン人メンバーの方が多かったため、仏国人メンバーはそのメンバーの中で少数派であった。AFは多くのイラン政府高官や貴人たちからの資金援助を受け取っている。⁽⁴⁹⁾

AFは仏語と仏文学の教育に重点を置き、仏語を教えるミッシヨナリー校やイラン人校に、財的、そして教育的支援を行った。⁽⁵⁰⁾ AFは、次に詳解するテヘランのアリアンス・フランセーズ (*Alliance Française*) 校に加えて、ラシュト (1897年)、ボルージェルド (1901年)、シーラーズ (設立年不明)、タブリーズ (1902年) にそれぞれ、学校を設立し、タブリーズのアリアンス・フランセーズ校をロクマーニーエ (*Loqmāniye*) 校と合併させた。⁽⁵¹⁾

テヘランのアリアンス・フランセーズ校

AFがイランに設立した最初の学校は、1890年にテヘランに設立されたアリアンス・フランセーズ校 (*Madrāse-ye Āliyāns*)⁽⁵²⁾ である。同校は初等教育レベルから高等教育レベル (仏国のバカロレアに匹敵する) までの教育を提供し、仏国人の全権公使の家に間借りする5人の生徒を抱えていた。

テヘランのアリアンス・フランセーズ校は、ガージャール朝宮廷や仏国政府からの資金提供を受けていた。1904年の時点で、この学校の予算は、12,000 仏フランであり、同年、モザツファロッディーン・シャーは同校に 10,000 仏フランを寄付した。⁽⁵³⁾ 同校は、モザツファロッディーン・シャーの時代から、毎年、計 1,000 フランの補助金 (*komak-e hazīne*) をイラン宮廷から受け取って

いる。だが、モハンマド・アリー・シャーの時代に、この補助金は廃止されてしまった。しかし、フランス・アジア協会（Komīte-ye Āsiyāi-ye Farānse）が、その支援金の削られた部分を補うことを承諾し、仏政府も毎年計1,500フランをテヘランのアリانس・フランセーズ校に支援することを保証した。仏政府の資金援助は、1909年にさらに増加し、計5,500フランとなった。1910年の時点で、この学校の年間収入額は18,000フラン、支出額は20,000フランであったという。

テヘランのアリانس・フランセーズ校の生徒数は、順調に増加していき、1902年には80人、1903年には100人、1904年には130人、1908年には167人、1909年には185人、1910年には215人に達した。⁽⁵⁴⁾生徒たちはほとんどがムスリムであり、彼らの年齢は8歳から40歳までと多様であったが、4、5人のユダヤ教徒と何人かのアルメニア人も、同校に通学していたという。

テヘランのアリانس・フランセーズ校の校長、フェヴリエ博士（Dr. Feuvrier⁽⁵⁵⁾）は、イラン人学生が仏国の進歩した学問を追究できるようにするための橋渡しとして、この学校が機能するよう望んだ。このため、AF側は「この学校の生徒たちが卒業後、仏国の大学システムの中に統合されることが促進されるように、この学校の卒業証書をバカロレアに匹敵するものと見なして欲しい」と繰り返し仏政府に求めている。しかしながら仏政府は、「仏国の大学に入学する前に、アリانس・フランセーズ校のイラン人卒業生たちは、一連の資格試験に合格すべきである」との主張を続けた。⁽⁵⁶⁾だが、同校からの要請で、1903年、仏政府は試験に合格した生徒たちのために、準備教育課程の卒業証書（gavāhināme-ye tahsīlāt-e moqaddamī）を発行する許可を与えた。

テヘランのアリانس・フランセーズ校は、1910年の時点で6学級を有しており、仏国の初等学校のカリキュラムに従って運営され、仏語に加えて、数学、地理、英語、物理、化学などを教えていた。1910年から、同校は、物理と化学の授業に必要な道具や装置を購入しはじめ、絵画や音楽などの科目のカリキュラムを実施するために、自らの予算の赤字額を補填していたという。このような質の高い教育を提供していたこともあり、この学校の卒業生は、設立時から20世紀初頭まで、イランの様々な施設や役所で仕事に従事することが可能となるほどの能力や学力を習得できたとされる。⁽⁵⁷⁾

3. 国際イスラエル協会

AIUは「教育は、ユダヤ教徒コミュニティの解放、道徳的再生、そして精神的ルネッサンスの最も主要な手段である」と信じ、AFと同様に自らを「文明化のための使節団」と見なして仏語教育の重要性を強調した⁽⁵⁸⁾。また、パリに拠点を置き、活動範囲や目的において、AFよりも国際的な文化団体であったといえる。それにもかかわらず、仏国の通商の利権あるいは政治的権益の推進を求めていなかったこともあり、仏政府側からもイラン政府側からも、AFと同程度の支援や奨励を受けることはなかったという⁽⁵⁹⁾。

19世紀後半において、AIUは、イランに学校を開校することに積極的であった。1873年の中央委員会報告は、学校設立に関する多くのガイダンス的な原則を掲載している。その中で、この団体の長は、中東に学校を緊急に設立する必要性を強調している⁽⁶⁰⁾。ダーロールフォヌーン（Dār ol-Fonūn）校の最初の医学教師であるヤコブ・エドワード・ポラック（Jakob Eduard Polak）も、AIUに対し、イランで学校を設立するように提案した。

AIUの代表者たちは、イランにユダヤ教徒のための学校を設立するという願望を果たすために、1873年、ナーセロッディーン・シャーがヨーロッパに滞在していた間、シャーに接近した。シャーの支援が約束されると、AIUの長は、セパフサーラル（Mīrzā Hoseyn Khān Sepahsālār）（在位：1871～1873）⁽⁶¹⁾が宰相に在任している間に、AIUの学校に対する公的なシャーの支援を要請する書簡を彼に送付し、ナーセロッディーン・シャーもそれに同意した。そうした行動が功を奏し、ナーセロッディーン・シャーの治世を通して、ユダヤ教徒の保護と、アリアンス・イスラエリテ（Alliance Israélite）校の設立に関する議論が継続した。

モザッファarroッディーン・シャーが即位すると、AIUも英国ユダヤ人協会（English Jewish Society）も、この新しいシャーに、イランにおけるユダヤ教徒の状況を改善するよう要請している。外務大臣はAIUを支援するという書簡を送り、500仏フランを寄付した。モザッファarroッディーン・シャーも、AIUの学校に対し、年に200トマーンを寄付すると約束し、AIUの教育努力を称賛する書簡を送付した。

1898年、テヘランにAIUの支部が開かれると、ハマダーン（1900年）、エスファハーン（1901年）、サナンダジュ（1904年）、シーラーズ（1904年）、

ケルマーンシャー（1904年）といった地方の中心都市にそれぞれ、AIUはユダヤ教徒のための学校を開いていった。⁽⁶²⁾ エスファハーンの学校は最初の年に220人の入学者を数え、1902年にその数は350人にまで増加し、1904年までに400人以上の生徒が入学したといわれる。⁽⁶³⁾

エッテハード（Ettehād）女子校と国際イスラエル協会

AIUが、テヘランのユダヤ教徒コミュニティの要請に答え、宰相を通じてシャーの支援を確保した後の1898年、最初のAIUの女子校であるエッテハード女子校（Madrase-ye Ettehād）⁽⁶⁴⁾がテヘランに開校された。⁽⁶⁵⁾ 同校の設立者で、校長・教師でもあったのは、カーズ（Cazes）という名の人物である。同校は、全て、仏国から送られた書籍や教育用具を使用していた。⁽⁶⁶⁾ 設立時、同校には100人の生徒が入学し、2人のヘブライ語教師に加えて、ペルシア語とアラビア語を教える教師として、6人のムスリムが採用されている。1927/8年の統計によると、この年、この学校は545人の生徒と18人の教師を有しており、生徒のうち231人が授業料無料で学習に従事していた。⁽⁶⁷⁾

エッテハード女子校の設立後すぐに、AIUは女子校を開校し、150人の生徒が入学した。⁽⁶⁸⁾ 教育省（Vezārat-e Ma'āref）の1927/8年の統計によると、同年この学校は390人の生徒と11人の教師を有し、生徒のうち138人が授業料無料で学習に従事している。⁽⁶⁹⁾

AIUにより1903年に設立された女子校は75人の生徒を擁し、1904年の時点で270人の生徒を有した。また、AIUにより1900年に設立されたハマダーンの学校は、350人の男子と250人の女子を擁して開校され、仏語を学ぶため何人かのムスリムもこの学校に入学したが、宗教教育は除外されていたといふ。⁽⁷⁰⁾

むすびにかえて

イラン国内で欧米人が活動する場合に欧米人校にとって最も脅威であったのは、イラン人からの反発よりも他の欧米人たちとの競争だったとされる。⁽⁷¹⁾ イランにおいて最も活発に活動し、多くの欧米人校を設立した米仏の宣教師たちや文化団体は、生徒だけでなく、政治的、宗教的優位性をめぐって互いに激しい競争を繰り広げた。前稿において述べたように、特に女子校を積極的に設立した米プロテスタントの米国宣教師と仏カトリックのボレ宣教師は、互いに強く

反発し争った。⁽⁷³⁾

AFは、イランにおける英国人やロシア人の圧倒的な政治的影響力を阻止したい、と望み、イランに仏語教育を根付かせるため、組織的かつ十分に資金提供を受けた上で、活動を開始した。イランに在住した仏国人の外交官や教育者の多くは、AFの活動的なメンバーである。明確な政治的そして通商的計画を有したことから、AFはイラン政府と協調して活動に従事し、高位のイラン人役人もAFの活動に参加した。このような活動は、イランに居住する一部の英国人やロシア人外交官の中に、AFに対する激しい反感を生じさせた。AFは、潜在的な反発を中和し、有益な政治関係を構築しようと、欧米人の医師、外交官、宣教師らを自らの許へ招待した。特に、米国宣教師の長であるパーキンズ（Perkins）と、テヘランとオルミーエに滞在していた仏ラザリスト会の宣教師たちを招いたという。さらにAFは、仏語を教えていた多くのミッションナリー校と密接な関係を築き、教育活動に必要な物品を援助するなどの財政的な援助も行った。100人の生徒を擁するタブリーズのロクマニーエ（Loqmāniye）校との関係に加えて、AFは15人の生徒を擁するタブリーズのロシュディーエ（Roshdiye）校、タブリーズの116人の生徒を擁するラザリスト修道会の学校、ホスローアーバード（Khosrouābād）のラザリスト会の60人の生徒を擁する女子校、オルミーエの35人の生徒を擁するスーザニヤーン（Suzanian校）、そしてその地域に設立された2校のアルメニア人学校に資金を寄付した。これらの学校はそれぞれ500ゲラーン（qerān）の財政的援助を受け、機会に応じて教科書を提供されていた。

人気を集めたAFの学校に比べ、AIUは困難な状況にあった。仏国政府はAIUを支持してはいたが、イランにおいてAFが被るAIUとの競合関係、特に名前の類似性に起因する問題を懸念していた。英国やロシアなどの領事たちも同国人により設立されたミッションナリー校を支援していたが、AIUの活動を積極的には支援しなかった。また、米国人学校は多くのユダヤ教徒の生徒を入学させていたので、生徒をめぐってAIUと競い合った。⁽⁷⁴⁾

ヨーロッパのキリスト教宣教師団の「隠された目的」は、総じてイランにおけるキリスト教の宣教と、この地域に居住するキリスト教徒の信仰を自分たちの宗派に改宗させることであった。しかし、これらのキリスト教宣教師団は常に争っていたため、イランにおいて宣教活動を成功させることができなかつたといわれる。ただし、前稿で述べたように、宗教教育を行うなど、宣教の意図を

隠さなかった米国の学校が反発を受けた一方で、男子の政治エリート養成に役立つ仏語や近代諸科学を提供し、宗教教育を行わなかった仏国の学校は、エリート層からの人気を集めた。

とはいえ、近代教育を提供する新方式学校は、仏国の学校も含めて、宗教界や既存の伝統的教育制度の教師たちからの反発を受けた。それはミッシヨナリーによる学校に限らず、ムスリムによる学校も例外ではない。特に、女子教育に対する反発は凄まじく、ムスリムが設立した女子校も含めて、激しい攻撃を受けた。対して、女子校側は、女子校を慈善行為の場とすることにより、既存の社会からの反発をかわそうとした。その結果、女子校を舞台とする教育・医療・福祉・慈善活動の連動が見られるのである。ザカート（喜捨）を義務とするイスラームでは、相互扶助の精神が篤いため、慈善活動を行うことは自らの正当性の主張に効果的であったと考えられる。加えて、米プロテスタントの女子校は「女性に必要な知識（欧米由来の近代的な家政学・医学・衛生学、女性のたしなみとして必要な手仕事）など」を提供することにより、自らの存在意義を主張し、その後のイラン人による女子教育推進運動にも甚大なる影響を与えた。⁽⁷⁵⁾

本稿では、イランにおける欧米人の教育活動について考察してきたが、その対象とされたイラン社会の反応についても分析する必要がある。イラン人は欧米人の活動をどのように受け止めて自らの行動を決定したのかという問題である。なお、「イラン人」あるいは「イラン社会」とひと口に言っても、政府関係者、ムスリムたち、宗教的マイノリティ社会、イスラーム指導者、イスラームの伝統的教育の教師たちなど多様な要素が存在する。また、前稿にて明らかにしてきたように、女子教育推進活動という舞台、および、女子教育に関する議論（女子教育必要論や女性に教えるべき知識とは何かといった議論）は、ナショナリズム・イスラーム・フェミニズム・西洋的近代合理主義など様々な要素の相克の場でもある。⁽⁷⁶⁾ 欧米人による教育活動は、イラン社会にどのような影響を与えたのか、考察することをさらなる課題としたい。

注

- (1) 拙稿「イランにおけるキリスト教宣教師の活動——近代教育を中心に」『駒澤大学仏教学部論集』42号、2011年10月、266～288頁

- (110) イラン近代教育と英仏の文化・宗教団体の活動（山崎）
- (2) 英国国教会（Church of England）すなわち英国聖公会（Anglican Church）のことを、日本語では「英国教会」「アングリカン教会」とも表記する。研究によっては、「British Anglican」と記すものもある。英国聖公会は英国教会の流れを汲む教会。「聖公会神学」または「英国教会主義」のことを「アングリカニズム（Anglicanism）」と言う。
- (3) 16世紀初頭の仏国において、教会の権威や既成のスコラ神学の枠にとらわれず、聖書そのものを重視し、この基礎の上に立って教会改革を目指した人々を福音主義者、あるいは聖書主義者（bibliens）と呼ぶ。一般にはキリスト教人文主義者を指す。
- (4) ガーજヤール朝期における CMS の活動に関する専門的な研究書である Barūmand, Safūrā, *Pazh̄theshī bar Fa “ālīyat-e Anjoman-e Tablīghī-ye CMS dar doure-ye Qājārīye, Tehrān: Mo’assese-ye Motāle’āt-e Tārīkh-e Mo’āser-e Īrān, 1380* は、CMS、つまり「Church Missionary Society」のことをペルシア語で「Anjoman-e Tablīghī-ye Kelīsā」と表記。「British Church Missionary Society」あるいは「English Church Missionary Society」と表記する研究書もある。Rostam-Kolayi, Jasamin, “Foreign Education, the Women’s Press, and the Discourse of Scientific Demesticity in Early-Twentieth-Century Iran”, in Keddie, Nikki R. and Rudi Matthee (eds.), *Iran and the Surrounding World: interactions in culture and cultural politics*, Seattle and London; University of Washington Press, 2002, p. 183 参照。
- (5) 英国国教会における「高教会」の流れがより深化した運動の総称。とりわけ19世紀オックスフォードの運動の中で形成された神学的立場をアングロ・カトリック主義と言う。「高教会（High Church）」とは、英国教会内でローマ・カトリック教会との歴史的連続性を特に強調する流れの総称で、教会の権威理解についてもローマ的概念を中軸とし、とりわけ歴史的主教性については伝統的な立場を固守する。
- (6) Barūmand [1380] によれば、英国聖公会のミッシヨナリーは19世紀に、カナダ北西部、ニュージーランド、中東、アフリカ西部、アフリカ東部、イラン、インド、パキスタン、セイロン島、中国南部、日本で活動した。「聖公会」という名称は、“Anglican Communion”の日本語訳であると同時に、イングランド国外における英国国教会の姉妹教会の名称の日本語訳。
- (7) Nāteq, Homā, *Kārnāme-ye Farhangī-ye Farangī dar Īrān 1837-1921*, Tehrān: Mo’assese-ye Farhangī-ye Honarī-ye Enteshārātī-ye Mo’āser-e Pazhūhān, 1380, pp. 91-92; Ringer,

Monica Mary, *Education, Religion, and the Discourse of Cultural Reform in Qajar Iran*, Costa Mesa, California: Mazda Publishers, Inc., 2001, p.129 によると、AFは「(仏国の) 植民地や海外に仏語をプロパガンダするための国民組織」として1884年にパリに創設された。

- (8) Rostam-Kolayi [2002: 184]
- (9) 仏国南西部ガスコーニュ地方の農民出身の聖職者ヴァンサン・ド・ポール (Vincent de Paul, 1851 ~ 1660) は、貧者への布教を志し、宣教修道会である「ラザリスト宣教会」を設立した。
- (10) 「モラヴィア教会」は「モラヴィア兄弟団 (Moravian Brethren, Mährische Brüder)」、あるいは「ボヘミア兄弟団 (Bohemian Brethren, Böhmsche Brüder)」とも言われ、15世紀ボヘミアに成立した自由教会的な信仰団体。
- (11) Arasteh, A. Reza, *Education and Social Awakening in Iran, 1850-1968*, Leiden: E. J. Brill, 1969, pp. 155-171
- (12) Curzon, George, *Persia and the Persian Question*, London: Frank Cass & Co.Ltd., vol.1, 1892, pp. 505-6 によると、英国教会宣教会 (Church Missionary Society) の保護下で Dr. Bruce により教会が設立された。Ringer [2001: 109-110] によると、英国国教会 (British Church Missionary) は1839年にイランに宣教所を創設、小さな学校を1校開校。
- (13) Curzon [vol.1, 1892: 505-6] によると、ヘンリー・マーティン (Henry Martyn) の活動と同じ頃、ディートリッヒ (Dietrich)、ザレンバ (Zeremba)、ハース (Haas) という何人かの宣教師が、シューシュとタブリーズに学校を設立した。Ringer [2001: 109-110] によると、その設立は1830年頃のことであったが、それらの学校は数年間しか存続しなかった。Curzon [vol.1, 1892: 505-506] によると、1838年には、ウィリアム・グレン (William Glen) がペルシアに到着し、マーティンの訳した新約聖書を完全なものにした他、ロシアのアストラハン (Āstarākān, Hashtarkhān) において、3年間、旧約聖書の翻訳に力を注いだ。
- (14) バーゼル (Basel) 宣教師団。Curzon [vol.1, 1892: 542-543] によると、1830年代頃、バール (Basle) [バーゼル (Basel) の旧称] のプロテスタント教会 (Protestant Church of Basle) により、アッシリア人たち (Nestorians) に対する宣教が開始された。しかしその宣教活動は長くは続かなかった。1837年に最初のミSSIONナリーがイランの地を離れた後、活動が停止された。
- (15) Arasteh [1969: 155-165] ; Ringer [2001: 122-126]

- (112) イラン近代教育と英仏の文化・宗教団体の活動（山崎）
- (16) Delrīsh, Bashārī, *Zan dar doure-ye Qājār*, Tehrān: Mo'assese-ye Enteshārāt-e Sūre, 1375, pp. 125 によると、ペルシア語表記は「San Vansān do Poul」で、この団体に属する仏国人シスターが、オルミーイエ、サルマース、タブリーズ、エスファハーン、テヘランに学校を設立。Ringer [2001: 125] では、「the order of Saint Vincent de Paul」と表記。ラザリスト修道会は、ヴァンサン・ド・ポール（Vincent de Paul）により 1625 年に創立された宣教修道会であるため、研究によっては、「Saint Vincent de Paul 修道会」と呼ばれる。この宣教会に属する団体として、在俗の女性たちにより慈善団体が組織された。こうした女性から成る団体を、Ringer [2001: 125] などは「Daughters of Charity (Daughters or Sisters of Charity of St. Vincent de Paul, Servants of the Sick Poor. 慈善活動を目的として、Vincent de Paul と Louise de Marillac により 1633 年に設立された)」と記している。Curzon [vol. 1, 1892: 542] によれば、この宣教会に属する「Saint Vincent de Paul 尼僧団のシスター (a nunnery of the Sisters of Saint Vincent de Paul)」が活躍していた。
- (17) Arasteh [1969: 158]; Ringer [1998: 172-242]; Rostam-Kolayi, Jasamin Karin, *The Women's Press, Modern Education and the State in Early Twentieth-Century Iran, 1900-30s* (Ph.D. Dissertation, University of California), 2000, p. 72
- (18) 会衆派教会 (Congregational Church) のことを「組合派教会」とも言う。個々の地方教会の独立と自治を基本とする組織形態を採る諸教会の総称。会衆派の本格的成立は 16 世紀中頃の英国。R. ブラウンらはエリザベス 1 世の「宗教解決」に不満を抱き、英国教会から分離した。この動きに H. バロウ、J. グリーンウッド、J. ペンリーらが合流し、運動は拡大。アムステルダムに移住した J. ロビンソンらは、新大陸伝道への情熱とともにニューイングランドに渡り、1620 年にプリマス植民地を建設、その後、会衆派は北米において急成長した。Arasteh [1969: 158] は、この会衆派の名称を「American Board in Boston」としている。ちなみに、現在「アメリカン・ボード」と日本語表記される団体の英語表記は「American Board of Commissioners for Foreign Missions」。アメリカン・ボードは、1810 年、マサチューセッツ州とコネチカット州の会衆派教会により設立された米国初の超教派的な海外宣教団体で、アジア各地に宣教師を派遣した。当初、アメリカン・ボードには長老派なども参加していたが、後、会衆派だけの宣教協会となった。
- (19) 長老派教会のことを「改革派教会 (Reformed Church)」とも言う。スイスの宗教改革の伝統と遺産を受け継ぐ諸教会の総称。聖書原理の厳密な適用、予定説

- に象徴されるような救いにおける徹底した恩恵を重視。Arasteh [1969: 158] は、長老派の宣教団の名を「Presbyterian Board of Foreign Missions」としている。なお、Ringer [2001: 110-113] による長老派教会の呼称は「American Board of the Presbyterian Church」であるが、Arasteh [1969: 158] による呼称は「Presbyterian Board of Foreign Mission」。
- (20) Ringer [2001: 122-126]
- (21) 文脈に従うと、Curzon は「Nestorians」という語を「ネストリウス派教会信徒」という意味に限定して用いているのではなく、「アッシリア人」という意味で使用しているようである。
- (22) Arasteh [1969: 155-165]
- (23) Delrīsh [1375: 124]
- (24) Arasteh [1969: 155-165]; Ringer [2001: 122-126]
- (25) Ringer [2001: 122-126]
- (26) Curzon [vol.1, 1892: 505-506]。ただし Ringer [2001: 124] は宣教所の開設年を、ハマダーン（1880）、ラシュト（1906）、ガズヴィーン（1906）としている。
- (27) Barūmand [1380: 56-57] によると、活動はアゼルバイジャン地方やマーザンダラーン地方に限定。
- (28) Rostam-Kolayi [2000: 72]; Ringer [1998: 172-242]; Barūmand [1380: 56-57]
- (29) Rostam-Kolayi [2002: 183]; Ringer [2001: 126-127]
- (30) 英国においてウィリアム 4 世の後援下で地理学の発展と地理学研究者の支援を目的として 1830 年に設立された団体。設立当初の団体名は「Geographical Society of London」。
- (31) キリスト教の教義を人々に理解させその理解を深めさせること、キリスト教教育とキリスト教関連の文献発行を目的として、アングリカン教会の司祭であるトーマス・ブレイ（Thomas Bray）により 1698 年に設立された団体。
- (32) Curzon [vol. 1, 1892: 543]
- (33) 1701 年に Anglican missionary 組織として設立された SPG は、1965 年に、「Universities' Mission to Central Africa (UMCA)」と合併し、「United Society for the Propagation of the Gospel (USPG)」となった。
- (34) Curzon は「Syrian Church」と表記。
- (35) Curzon [vol. 1, 1892: 543-544]
- (36) Ringer [2001: 126-127]; Delrīsh [1375: 126] は「エスファハーンのジョルファー

(114) イラン近代教育と英仏の文化・宗教団体の活動（山崎）

に、1人の英国人牧師が、男子校と女子校を設立した」と述べている。

- (37) Afary, Janet, *The Iranian Constitutional Revolution, 1906-II, Grassroots Democracy, Social Democracy, and the Origins of Feminism*, New York: Columbia University Press, 1996, pp. 47, 77, 135, 350 によると、モザッファロッディーン・シャーの兄でモハンマド・アリー・シャーのおじであり、エスファハーン知事を務め、立憲制を支持。
- (38) Ringer [2001: 126-127]
- (39) Curzon [vol. 1, 1892: 544] によると、そのうちの1人であるブラウン (W. Browne) 師は、1887年から1888年にかけての冬を、この地のある村で過ごし、「クルド人によるキリスト教徒虐殺を防いだ」という。
- (40) Delrīsh [1375: 126]
- (41) Curzon [vol. 1, 1892: 544]
- (42) Qāsemī Pūyā, Eqbāl, *Madāres-e Jadīd dar Doure-ye Qājārīye, Bānīyān va Pīshravān*, Tehrān: Markaz-e Nashr-e Dāneshgāhī, 1377, pp. 529
- (43) Nāteq [1380: 91-92]
- (44) アーガー・エブラーヒーム・アミーノッソルトーン (Āqā Ebrāhīm Amīn os-Soltān) の息子、ミールザー・アリー・アスガル・ハーン・アターベク・アアザム (Mīrzā ‘Alī Asghar Khān Atā Bek A‘zam)。1858/9年～1907/8年。ナーセロッディーン・シャー、モザッファロッディーン・シャー、そしてモハンマド・アリー・シャーの大宰相 (Sadr A‘zam) であった。Afary [1996: 18, 32-35, 53, 98-99, 109, 112-113, 359]、Afshārī, Parvīz, *Sadr A‘zam-hā-ye Selsele-ye Qājār*, Tehrān: Vezārat-e ‘Omūr-e Khāreje, 1376, pp. 177-208 参照。
- (45) Afary [1996: 26, 27, 32, 33, 36, 41] によると、モザッファロッディーン・シャーの宰相として一連の改革を開始。Afshārī [1376: 211-222] 参照。
- (46) Bayat-Philipp, Mangol, *Iran’s First Revolution: Shi‘ism and the Constitutional Revolution of 1905-1909*, New York: Oxford University Press, 1991, pp. 19, 48, 57-58, 133, 136, 175, 194 によると、最も影響力を有したガージャール家の王子で、テヘラン知事、戦争省大臣を務めた。
- (47) “Tārīkhche-ye Ma‘āref-e Īrān”, *Majalle-ye Ta‘līm va Tarbiyat*, 1313, sāl-e chahārom, mehr-māh-ābān-māh, no.7 and 8, pp. 360-364; Ashraf, Ahmad, “Education—General Survey of Modern Education”, *Encyclopaedia Iranica*, vol.7, Costa Mesa, California: Mazda Publishers, 1998, pp. 189. イラン最初の近代的な学校であるテヘランの

ダーロールフォヌーンは、アミーレ・キャビールの近代化政策の1つとして、1850年に建設が開始され、1851年に完成した。この学校はイラン最初のヨーロッパ型の高等教育機関であり、軍事、工学、医学などを教え、名士の息子たちを教育するための学校であった。

- (48) モザッファロッディーン・シャーの時代に、教育大臣やダーロールフォヌーン校長を務めた。
- (49) Ringer [2001: 129-130]
- (50) Rostam-Kolayi [2002: 184]
- (51) Ringer [2001: 132]
- (52) Mahbūbī-Ardakānī, Hosein, *Tārīkh-e Mo'assesāt-e Tamaddonī-ye Jadīd dar Īrān*, Tehrān: Tehrān University Press, vol.1, 1370, p. 368によると、1890/1年、アリアンス・フランセーズ (Āliyāns-e Farānse) 男子校が、テヘランに開校された。なお、Qāsemī Pūyā [1377: 525-526] は、「モザッファロッディーン・シャー専用の医師 (pezeshk) であり、在イランのアリアンス・フランセーズ地域団体 (Anjoman-e Mantaqehī-ye Āliyāns Farānse) の長が、1898年に新しい学校1校をAFのカリキュラムに従ってテヘランに設立するように、アリアンス・フランセーズ (mo'assese-ye Āliyāns) を説得した。彼のこの考えは1899年に実行されたが、実際は、テヘランのアリアンス・フランセーズ校 (Madrased-ye Āliyāns) は1900年から8人の生徒を擁して自らの活動を開始した」と述べている。
- (53) Ringer [2001: 129-132]
- (54) Qāsemī Pūyā [1377: 525-6]
- (55) Ringer [2001: 129-130]
- (56) Ringer [2001: 131-132]
- (57) Qāsemī Pūyā [1377: 525-526]
- (58) Ringer [2001: 133]
- (59) Nāteq [1380:126]; Ringer [2001: 134]
- (60) Ringer [2001: 133]
- (61) ミールザー・ホセイン・ハーン・モシーロッドウレ・セパフサーラル・ガズヴィーニー (Mīrzā Hosein Khān Moshīr od-Doule Sepahsālār Qazvīnī)。アミーレ・キャビールの方針を引き継ぎ、司法、行政、軍政、経済などの面で近代的な改革を実施した。Afshārī [1376: 155-161] 参照。
- (62) Rostam-Kolayi [2002: 184]; Derlīsh [1375: 126-127]。Derlīshによれば、何年なの

(116) イラン近代教育と英仏の文化・宗教団体の活動（山崎）

かははっきりしないが、ある年には2,225人の生徒を擁していたという。

(63) Ringer [2001: 135]

(64) Qāsemī Pūyā [1377: 526-527] は、この学校を「Madrāse-ye Āliyāns-e Zokūr-e Kalīmī」と呼んでいる。

(65) Najmābādī [1998: 233-234]; Rostam-Kolayī [2002: 184]

(66) Ringer [2001: 134-135]。Qāsemī Pūyā [1377: 526-527] によれば、1898年にAIUがこの学校を設立。

(67) Qāsemī Pūyā [1377: 526-527]

(68) Ringer [2001: 135]。Qāsemī Pūyā [1377: 527] によれば、1898年に、AIUがこの学校を設立した。

(69) Qāsemī Pūyā [1377: 527]

(70) Ringer [2001: 135]

(71) カトリックとプロテスタントの間の争いについては、拙稿『駒澤大学仏教学部論集』42号、2011年

(72) *Ibid.*

(72) Barūmand [1380: 76]

(74) Ringer [2001: 110-116, 129-132, 138, 141, 136]

(75) 拙稿「20世紀初頭テヘランにおける女子校設立と女子教育政策」『イスラム世界』第64号、2005年3月、21～46頁；「イランにおける女子近代教育の発展と女子教育に関する言説」『イスラム世界』第73号、2009年9月、29～58頁；「女子教育と識字——「近代的イラン女性」をめぐる議論とナショナリズム」『歴史学研究』第873号、2010年11月、49～60頁

(76) 拙稿『イスラム世界』第73号、56～58頁；『歴史学研究』第873号、57～58頁